

学校応援プロジェクト 2020 年度活動報告 Global Gate Way
多摩市立東愛宕中学校・Global Gate Way プロジェクト
～オンラインによる 開催～

12月17日(木)、多摩市立東愛宕(あたご)中学校英語部のみなさんと2回目となるGlobal Gate Wayをオンライン(Webex)で開催しました。

当日は代表の学生とプロジェクト・コーディネーターの2名が中学校に伺い、他のメンバー6名はそれぞれが自宅からオンラインでの参加です。

中学校では教室内で密にならないように間隔をあけて6台のタブレットを配置し、それぞれの前に生徒2～3人のグループが分かれて着席します。準備が整ったところでWebexに接続すると、画面上に参加者が登場し、いよいよ開会です！オンライン上で全体の流れの説明を行った後、Webexのブレイクアウトセッション機能を使い、6つのグループに分かれてアクティビティがスタートしました。



今回のGlobal Gate Wayでは、3種類のアクティビティを行います。『アパレルショップ』または『家電量販店』での買い物、『旅行代理店』での海外旅行の計画、そして『オンライン診療』です。生徒のみなさんには、15分ずつ3種類のアクティビティに参加してもらいました。それぞれのアクティビティでは、店員役や医師役の学生と生徒とが英語でコミュニケーションを行います。うまく買い物やオンライン診療ができればミッションクリアです。

アパレルショップや家電量販店では、「May I help you? Are you looking for something?」からスタート。前回のGlobal Gate Way同様、「I want ○○…」と回答すればOK!とはいかず、次から次へとお節介な(?)店員から英語でツツコミが入ります。オンライン診療では「What's your name?」「My name is ○○.」という、中学校1年生でも簡単に出てくるフレーズからはじまります。簡単な日常会話で緊張がゆるんだところに「What's wrong with you?」と症状についての質問・・・生徒は手元の問診票を見ながら具合が悪いところを決めて「I have a headache.」「I have a fever」と具合の悪いところを伝え、質問に答えていきます。旅行代理店では「Hello! Welcome to Higashi Atago travel Agency. Do you want to travel somewhere?」と旅行先の希望を聞かれます。ここでも、店員役の学生から様々な質問が・・・生徒たちは、知っている単語やフレーズを駆使して何とか会



話をつなげようと一生懸命です。答えに困っている1年生に、隣の2年生が、一生懸命アドバイスをしている姿がとても微笑ましかったです。予定の買い物や診察が終了すると、数分間は日常会的な会話のやりとりで、好きなスポーツや食べ物のことなど、平易な英語を使い楽しみました。



生徒たちは1種類目のアクティビティこそ緊張気味で会話も慎重でしたが、2種類目からはそれぞれのセッションルームに学生が入ってくると、次々と「Hello!」「How are you today?」の音が響き渡り、活発に会話ができるようになってきました。

今回のプロジェクトは、コロナ禍で対面での活動が制限される中、どのようにしたら学校での活動ができるかを考えました。プロジェクトのメンバーは夏前からWebexを使つてのミーティングを繰り返し、今回のようなオンラインでの交流会を計画しました。10月にはおおよその計画を完成させ、中学校とも協議の上、実施にこぎつけることができました。その後も、11~12月は、それぞれのアクティビティの内容をブラッシュアップし、リハーサルを繰り返して当日に臨みました。

実施後のアンケートには、「2年生として1年生を引っ張っていかないって感じだったけど、1年生もちゃんと会話しながら楽しむことができたので嬉しかったです。来年もお願いします。」という先輩らしい感想や、「学生との会話で2年生に頼りっぱなしだったので、もっと勉強して会話出来るようになりたい。」といった1年生の思い、また「とても楽しくできた。自分は中1で大学生となんか英語で会話できないと思っていたけれど、大学生が話を合わせてくれてやりやすかった。」という、うれしい声もありました。昨年度に続き2回目ということもあり中学生のみなさんが、意欲的に参加してくれ、とても喜んでくれたことが何よりです。生徒の皆さんの満足度は92.3%でした。

